昔、男^①ありけり。女のえ^②得まじかりけるを、年を^③経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに^④来けり。芥川といふ河を^⑤率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいと^Aいみじう鳴り、雨も^Bいたう降りければ、^Cあばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡籥を負ひて戸口に^⑥をり。はや夜も明けなむと思ひつつ^⑦あたりけるに、鬼、はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴るさわぎに、え聞かざりけり。やうやう夜も明けゆくに、^⑧見れば、率て来し女もなし。足ずりを^⑨して泣けども、^Dかひなし。

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて^⑩消えなましものを

問 本文中の傍線部①～⑩及び二重傍線部A～Dまでの用言について、次の問いに答えよ。

☆必要に応じて文法書等で調べながら取り組んでもよい。

(1) 傍線部①～⑩の動詞の活用の行と活用の種類をそれぞれ答えよ。

①	ラ行 変格 活用	②	ア行 下二段 活用	③	ハ行 下二段 活用
④	カ行 変格 活用	⑤	ワ行 上二段 活用	⑥	ラ行 変格 活用
⑦	ワ行 上二段 活用	⑧	マ行 上二段 活用	⑨	サ行 変格 活用
⑩	ヤ行 下二段 活用				

ヒント：

一 四段活用・下二段活用・上二段活用
 動詞の未然形に助動詞「ず」を付けてみる。(不可能動詞にならないように注意)

☆あ段に付く：四段活用動詞

☆い段に付く：上二段活用動詞

☆え段に付く：下二段活用動詞

二 カ・サ・ナ・ラ変格活用や上一・下二段活用の動詞は限られた語数しかありません。

文法書 p18～31を参照

(2) 二重傍線部A～Dの形容詞・形容動詞の活用の種類を答えよ。

A	シク 活用	B	ク 活用	C	ナリ 活用	D	ク 活用
---	-------	---	------	---	-------	---	------

ヒント：

形容詞の基本形に「なる」を付けてみる

☆「○○くなる」「○○くなる」のように繋がった場合…ク活用

☆「○○しくなる」「○○じくなる」のように繋がった場合…シク活用

(3) 二重傍線部A～Dの形容詞・形容動詞には音便が用いられているものが二つある。その二つを記号で指摘し、音便の種類を答えよ。

A	ウ 音便	B	ウ 音便
---	------	---	------

(4) 傍線部①～⑩の動詞の活用表をそれぞれ完成させよ。(語幹はひらがな表記で)

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
消ゆ	す	見る	ゐる	をり	率る	来	経	得	あり	基本形
き	(す)	(み)	(ゐ)	を	(ゐ)	(く)	(ふ)	(う)	あ	語幹
え	せ	み	ゐ	ら	ゐ	こ	へ	え	ら	未然形
え	し	み	ゐ	り	ゐ	き	へ	え	り	連用形
ゆ	す	みる	ゐる	り	ゐる	く	ふ	う	り	終止形
ゆる	する	みる	ゐる	る	ゐる	くる	ふる	うる	る	連体形
ゆれ	すれ	みれ	ゐれ	れ	ゐれ	くれ	ふれ	うれ	れ	已然形
えよ	せよ	みよ	ゐよ	れ	ゐよ	こ(こよ)	へよ	えよ	れ	命令形

(5) 傍線部①～⑩の動詞の活用形をそれぞれ答えよ。

⑨	⑤	①
連用形	連用形	連用形
⑩	⑥	②
連用形	終止形	終止形
	⑦	③
	連用形	連用形
	⑧	④
	已然形	連用形

(6) 二重傍線部A～Dの形容詞・形容動詞の活用表を完成させよ。

	D	C	B	A	
	かひなし	あばらなり	いたし	いみじ	基本形
	かひな	あばら	いた	いみ	語幹
から	く	なら	から	じから	未然形
かり	く	に	かり	じかり	連用形
	し	なり		じ	終止形
かる	き	なる	かる	じかる	連体形
	けれ	なれ		じけれ	已然形
かれ		なれ	かれ	じかれ	命令形

(7) 二重傍線部A～Dまでの形容詞の活用形をそれぞれ答えよ。

A	連用形
B	連用形
C	連体形
D	終止形